写真 2021年度 JAいるま野 コンテスト審査結果

管内の風景を後世に伝えようと、昨年10月から今年６月にかけて募集した「JAいるま野写真コンテスト」。今回は、35人の方から計70点のご応募をいただきました。審査結果は、以下の通りです。なお、入賞作品８点は、「2022年版JAいるま野カレンダー」に掲載する予定です。

最優秀賞「早苗暮景」

加藤　祐三さん

まさに日が落ちんとする夕刻の水田の、光と影が描く風景です。農作業帰りでしょうか、笠をかぶって鍬を肩にかついだ人物が目を引きます。構図右上側の太陽から始まるオレンジ色の光のグラデーションと、左下の人物像が調和し、安定した構図を形作っています。完成度が高い1枚です。

優秀賞「お手伝い」

厚目　正さん

養蚕農家の仕事を手伝う子どもです。まだ不慣れなのでしょうか、少しぎごちない感じで真剣に桑の葉を与える姿を、女性が優しく見守っています。守り伝えるべき伝統的農業を次の世代が学ぶ姿を、しっかり記録しています。

優秀賞「田植の合い間に」

氣賀澤　恒和さん

田植えが進んだ水田をハイアングルで収めた1枚です。水面に青空が映り、縦横に走る作業道や畝、植えられた苗が織りなすパターンがとても美しいですね。水田の魅力の一端を、目新しい視点で描いています。

入選

- 「用済み御免」　水上　貴夫さん
- 「桂木ゆず最盛期」　大谷木春男さん
- 「茶娘」　諸井　敏江さん
- 「里芋の収穫」　久保田省三さん
- 「世代交代」　田中　圭さん